

県人の応援背に熱演

林家染太さん(松山出身)初の中トリ

大阪・繁昌亭 観客の爆笑誘う

松山市出身の落語家 林家染太(本名・荻山志行)さん(三十三)が十五日、上方落語の殿堂「天満天神繁昌亭」で県人らに見守られ初めて中トリを務めた。

中トリは休憩(中入り)直前に登場し公演最終のトリにつなぐ重要な出番。この日夜に開かれた高座はベテラン女性落語家露の都さんを下りに計十人が出演した。

六番目に登場した染太さんは、古典の「天災」に英語を織り交ぜ

つつ短気な主人公を表情豊かに熱演。開始約三分後には顔を汗でビツシヨリぬらし、観客の爆笑を誘っていた。

この日は関西在住の県人十二人が応援に駆け付け、場内中央前列付近に陣取り染太さんの晴れ舞台を見守った。公演後、染太さんは「目の前で応援してくれ心強かった」と無事に大役を果たしホッとした表情を見せた。

染太さんは松山北高から関西大学卒業後、四代目林家染丸さんに

弟子入り。英語でも落語を演じ米国やカナダでも公演している。繁昌亭は民間からの寄付で二〇〇六年九月、

同市内では約六十年ぶりの落語専門常設寄席としてオープンした。



天満天神繁昌亭で初めて中トリを務め熱演する林家染太さん